

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

市長あいさつ

林会長あいさつ・活動状況報告

意見交換

- ①図書館行政の充実について
- ②高齢社会に適応した体制づくりについて
- ③子ども条例について
- ④まちづくり推進協議会の運営方法等について
- ⑤子育てサロンの充実について
- ⑥町内会の加入促進について
- ⑦医大横の土地に多目的ホールなどの建設について
- ⑧不要になったテレビの処分について
- ⑨災害用備品の保管場所について
- ⑩孤独死をなくすための取組について
- ⑪まちづくり推進協議会の役割について

市長終わりのあいさつ

第56回目となる今回は、各支所所管区域内の地域住民等が、地域の課題を共有し、その解決に向けた方策を検討し、地域特性を活かした個性あるまちづくりを推進するため、平成22年度に各支所に設置された「まちづくり推進協議会」のうち、「神楽まちづくり推進協議会」（林会長）の委員の皆さんと、これまでの活動状況や今後の課題、市への提言などについて対話、意見交換を行いました。



日時	平成23年7月25日(月) 午後6時00分～午後7時00分
場所	旭川市神楽公民館 第1学習室 (旭川市神楽3条6丁目1番12号)
相手団体	神楽まちづくり推進協議会(林徹男会長)の委員 13人(当日の出席者9人)
出席者	旭川市長 西川将人 「神楽まちづくり推進協議会」(五十音順 敬称略) 今井敦 大谷地裕明 岡愛三 北川武子(副会長) 古池正之 林徹男(会長) 平原博二 三國巖 森好和

対話の内容

市長あいさつ

皆さん、こんばんは。

今日は神楽地域のまちづくり推進協議会の皆さまとの対話集会ということで、たいへんお忙しい方々ばかりでございますが、お時間を取っていただきありがとうございます。

ざいます。また、日頃から地域づくり、まちづくりにそれぞれの立場からお力添えをいただいておりますことに、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

市長に就任して4年と少し経ちますが、その間、対話から市政を動かすという思いで、市内各地域、様々な団体の皆さんとこれまで対話集会を重ね、今日で56回目になります。今、市内には七つのまちづくり推進協議会がありますが、前回は神居まちづくり推進協議会の皆さんとこのような機会を持たせていただき、今日の神楽まちづくり推進協議会の皆さんとの開催で2回目ということになります。今後すべてのまちづくり推進協議会の皆さんとこのような機会を持たせていただきたいと考えているところです。

これまでの対話集会で、地域の皆さんからいろいろなお話をいただきましたが、町内会への加入率の低下について、多くの方から意見をいただいております。この加入促進に向けた取組をそれぞれ地域の皆さんにもたいへんご苦勞をさせていただきながら進めてきているところです。加入率の低下についてはさまざま要因があるかと思いますが、人と人とのつながり、特に地域、隣近所とのお付き合いを嫌う傾向が、特に若い人たちの間で増えてきているというのも一因としてあるかもしれません。それは戦後の教育や家族のあり方など、いろいろなことが原因となっているのかもしれません。しかし魅力ある地域づくりという部分では、そういった人たちが、町内会や様々な地域の団体の中で活動することは楽しいことなんだと心から思うようになると、やはり加入してきてくれると思いますので、私たちとしては、まず魅力ある地域活動をどうつくっていくかということも課題なのかなと思っています。皆様方からのお知恵を借りながら、地域活動の再生、地域力の強化といえますか、いろいろと知恵を絞って魅力ある地域づくりを進めていかなければならないと思っています。

少子高齢社会の進展や核家族化、また一人暮らしのお年寄りの方も毎年増えてきており、昨年は所在不明の高齢者についてが社会問題となりましたが、そのような課題は本市でも抱えています。そういった方々に対して、いろいろな角度からアプローチして、社会で孤立している人たちを一人でも少なくしていくことは、私たち行政のたいへん重要な役割でありますし、また行政だけではカバーしきれない部分が多々ありますので、様々な地域団体、またボランティア団体などの皆さんのお力も借りながら、孤立している人たちがいない旭川をつつていかなければならないと思っています。そのようなことから、地域の団体の皆さんにご参画をいただいて、このまちづくり推進協議会を支所単位でつくらせていただき2年目となりました。そして今年は支所のない地域の皆さんの所にもまちづくり推進協議会を組織して、そこできめ細やかな地域づくりを行なっていただくことが出来るように、現在協議をしているところです。



また先日、旭川地域自治検討会議を設置させていただき、第1回目の会議が開かれたところです。市民自治の考え方や方針を定める、まちづくり基本条例の検討を今進めておりますが、この自治検討会議の中でも今後の地域づくり体制の構築

についていろいろなご意見もいただきたいと思っているところでございます。

神楽まちづくり推進協議会の皆さんには、昨年1年間いろいろとご議論いただき、災害対策、高齢者対策、地域の環境美化、そして地域活性化などについて熱心にご議論いただき、また神楽地区だけでなく西神楽地区の市民委員会の皆さんも含めた中で、特色ある事業、イベントなどの内容をまとめた小冊子を作っていただき、地域のコミュニティづくりに活用していただいていると聞いております。本当にありがとうございます。

協議会の委員の皆さんには、昨年から継続して委員となっていた方、また新たになられた方、公募の方も含めまして、日頃からお世話になっておりますことを、改めてお礼を申し上げます。今日は1時間という限られた時間ではありますが、皆さんと有意義な意見交換をさせていただいて、また本地域の発展と活力につなげていくことが出来ればと考えておりますので、よろしく願い申し上げます。簡単ですが冒頭にあたってのあいさつに代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

林会長あいさつ・活動状況報告

皆さん、こんばんは。

今日は暑い中、ご出席いただきましてたいへんありがとうございます。また市長には本日の対話集会のために、たいへんお忙しい日程の中ご出席いただきありがとうございますことに厚くお礼を申し上げます。

それでは、私の方から神楽まちづくり推進協議会を代表しまして、これまでの経過を報告させていただきます。

私たちは昨年6月に委員となって以来、神楽地区の魅力と地域課題について、意見を出し合い、課題解決の方策について意見交換してまいりました。その中の意見を大別しますと、一つ目は安心安全のための災害対策、高齢者対策、子ども対策など。二つ目には地域環境美化のためのポイ捨て禁止、花壇づくり、イベント後の清掃。さらに三つ目として地域活性化のためのまちづくり提言、特色ある事業の紹介、町内会、市民委員会の活性化などに分けられました。これらの内容についてさらに検討の結果、一つ目の安心安全につきましては、既に市や社会福祉協議会、民生児童委員協議会、学校などで一部取り組んでおりますので、とりあえず保留にしまして、二つ目の環境美化については、花壇作りに魅力を感じましたものの、時期的に間に合わないということで、三つ目の地域活性化に取り組むことにいたしました。

まず、特色ある事業の紹介は補助事業で取り組むことにしまして、神楽地区市民委員会連絡協議会にお願いして、神楽及び西神楽地区の12地区市民委員会から町内会、市民委員会の事業だけでなく、NPO法人などの団体が行う事業も幅広く取り上げて、出来上がりました500部の冊子は、各町内会や市民委員会のほか、神楽地区の主要な施設、学校にも配布し、地域活性化に役立ててもらっています。

地域活性化の提言につきましては、神楽地区はその地域性から二つのブロックに分けられ、一つは2本の橋で中心市街地となる駅南ブロック。もう一つは緑が丘団地を中心とする丘の上の文教地区ブロックで、それぞれ課題を持っておりますので、その課題解決のための提言を神楽地区市民委員会連絡協議会に提出して

おります。その結果、駅南ブロックは神楽宮前と神楽本町両地区市民委員会が中心になり、「駅南地区のまちづくりを考える会」が発足し、6月に市との懇談会を開催しています。また9月には新しい旭川駅舎や河川敷地に計画されている緑化計画、クリスタル橋の工事の進捗状況などの見学会を予定しています。また、丘の上ブロックも緑が丘、緑が丘東、西御料地、神楽岡東、旭神の5地区で「5地区市民委員会まちづくり推進協議会」を発足し、中核となる広域コミュニティ施設の要望などについての打合せが行われております。



次に、23年度の状況ですが、22年度の計画を受け環境美化について、4月に氷点橋が開通し、神楽側通りが氷点通りと愛称が決まったことから、これをおもてなし通りとして花壇で飾り、車や歩いて神楽に来る人に良い印象を持ってもらおうとフラワーポットの製作について話し合い、工業高校に原材料費で製作出来ないか打診しています。維持管理につきましては、駅南地区のまちづくりを考える会の会長がボランティアによるサポーター制度について打診してくれておりますし、地域で月1回ボランティアのごみ拾いを定例化する意見も出ております。そのほかの今年度の意見では、節電の取組を小中学校の消費電力の比較などで子どもにも意識してもらうのはいかがでしょうか、また地域の観光やイベントの紹介と合わせて健康ウォーキングコースを紹介するイラストマップの作成、神楽岡の森や見本林の林、忠別川や美瑛川など自然と親しむ子ども向けのイベントの開催などの新たな意見も出ております。今後、さらに3回目、4回目の会議で論議を深め、次年度へ引き継いでいこうと思っています。やはり1年1年で完結していくことはなかなか難しく、委員の意見が、委員が替わっても後年に引き継がれて生かされていくように考えていくのがいいのかなと思っています。

以上、長くなりましたが、昨年度来の状況についてご報告させていただきました。本日はこのような機会をつくっていただきましたことに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

～意見交換～

参加者から寄せられた意見と、市長のコメントについてまとめたものを掲載します。
(以下、参加者の皆様については、敬称を省略させていただきます)

①図書館行政の充実について

北川

旭川絵本の会では、「すべての子どもたちに本の楽しさを」を合言葉に活動を続けてきています。私たちの活動は図書館とは切っても切れない関係にあります。現在の市の図書館行政の発展は目の見張るような素晴らしいものがあり、図書館ネットワークがとても発展しています。旭川市内のどこに住んでいても、返却ポストが各地の図書館にありますので、本を返すことが出来ます。このネットワークの充実と職員の専門的な知識に私たちボランティアの活動はたいへん助けられています。

今年度から、市では「うぶごえへの贈り物」という事業を始められ、子どもが生ま

れた世帯へ絵本を贈っています。生まれた時からもう絵本が手に出来るという素晴らしい環境をつくっていただき、とてもありがたく思っています。やはりこれは市の図書館行政がしっかりしているから出来るものだと思います。

また、毎年、市民の方に読み聞かせボランティア養成講座を受けていただく活動も行っています。やはり図書館がしっかりとしているということが、私たちの活動の基礎であり、また充実、発展出来るのだと思っていますので、今後ともどうぞ図書館を充実していただき、市の責任を持って管理運営をしていただきたいと思います。

市長

日頃からお世話になっておりまして、本当にありがとうございます。また、図書館行政についても気付いたことがありましたら言っていただいて、今後ともいろいろとお力添えをお願いいたします。

今年度から民生児童委員の皆さんのお世話になり、今年4月以降に生まれた子どもがいる世帯に2冊の絵本を配らせていただいております。そのことがブックスタートといいますか、読み聞かせ、子どもがお母さんとお父さんと一緒に本を読むという習慣となる第一歩に出来ればという思いもあって始めさせていただきました。旭川市の図書館が素晴らしいレベルを維持出来ておりますのも、読み聞かせのいろいろな団体の皆さんのお力添えがあつてこそと思っておりますので、どうぞ引き続きお力添えをお願いしたいと思っています。

②高齢社会に適応した体制づくりについて

今井

私たちは地域包括支援センターで65歳以上の高齢者を対象に仕事をしていますが、まちづくり推進協議会に参加するようになり、地域の状況や他の分野の事も含めて広い視点で物事を見たり情報をいただくことができ、とても良かったと思っています。

高齢者や地域に関しては、日々課題を抱えて仕事をしていますが、この協議会に参加することで、まち全体が活性化されて、それは高齢者の方々の活性化にもつながると思います。また、こういう場をご利用させていただいて、高齢者についてのいろいろな情報等について皆さんと情報交換をしていながら勉強していきたいと考えています。

市長

高齢者につきましては、どうやって健康を維持していただくかということが本当に重要な課題でありますし、社会から孤立してしまわないように、きめ細やかなサービスを私ども行政も地域包括支援センターの皆さんと今後ともいろいろと情報交換させていただきたいと思っております。地域包括支援センターは、市の委託で設置させていただいており、一心同体だと思っていますので、さらに連携を深めて進めていければと思います。どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げます。

森

神楽地区に限らず、今後は高齢者が多くなっていく中で、高齢者を中心とした社

会や生活づくりが喫緊の課題だと思われます。その中でこの協議会の役割というのは、そのための仕掛けづくりやコーディネートをしていくことだと思います。行政や民間、また地域の方々の間をコーディネートする役割を担っていると考えています。そして、この神楽地区の特徴を生かした、あるいはリソースを生かした中での、孤立に陥らないコミュニティづくりや、あるいは地域に応じた見守りシステムなどが必要なのかと考えております。そのような新しい居場所づくりや地域社会とのつながりなどが今後非常に重要になっていくと思っています。是非この協議会の中でそういうつながりを持てるようなかたちの活動をしていただきたいと思います。

市長

高齢社会に適応した体制づくりは、たいへん重要なことだという思いでおりますし、それらについてをどう具現化して地域に取り込んでいくかということが課題だと思っています。これからそのシステムづくりなどを具体的に進めていく上でお力をお借りしたいと思っています。私たちも当然考えていきますが、是非協議会の中で議論を深めていただいて、ご提言していただいて、事業展開をしていければと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

③子ども条例について

大谷地

私はPTAとしていろいろなところへ出て行く機会が多いのですが、先日、市の子ども条例についての説明会に出席したところ、市長が子どもたちのことを非常によく考えていらっしゃったことにとっても感動しました。

市長

子ども条例については、今、条例案について協議を進めているところです。少子社会の中ですが、やはり子どもたちが元気で夢を持って、この旭川でそしてこの国で育っていったらというところが次の社会の活力になっていきますので、出来る限りの最大限の応援をしっかりとしていかなければいけないと思っています。子ども条例をしっかりとつくって、それに実のある事業を付けて事業展開をしていきたいと思っていますので、PTA連合会の立場からもいろいろとお力添えいただきたいと思っています。

④まちづくり推進協議会の運営方法等について

林

協議会の23年度の事業としては、フラワーポットの製作、健康ウォーキングコースを紹介するイラストマップの作成、自然と親しむ子ども向けのイベントの開催などの新たな意見も出ています。今後、さらに3回目、4回目の会議で論議を深め、次年度へ引き継いでいこうと思っています。1年1年で完結していくことはなかなか難しいので、委員の意見が、委員が替わっても後年に引き継がれて生かされていくように考えていくのがいいのかなと思っています。

大谷地

まちづくり推進協議会は年度毎で予算が組まれていることは理解出来ますが、

やはり単年度で終わるのではなく、継続事業となるようなものを考えていった方がいいと思っています。どうしてもこのような会議は、委員が選出されて6月に初めて集まり、その後一月に1回会議を開催して、すぐ秋になり、もう日にちがない、何かしなければならないということになってしまいます。そうではなく、今年はこちらまで、来年はここからこっちに伸ばしていこうというような継続的な流れを作っていたけるとたいへんありがたいと思います。

岡

このまちづくり推進協議会には、いろいろな立場の方が委員となっていますので、いろいろな意見が出ます。しかし、意見の内容によっては市の担当部署などに直接聞いてみることも必要だと思います。例えば高齢者の問題については市の介護高齢課に、安否確認については社会福祉協議会に直接聞いてみると思います。

⑤子育てサロンの充実について

岡

子育てについての話も協議会では出ていますが、子育てサロンへ参加してみてもどうかと思います。神楽地区の子育てサロンは市内のほかの地区からも参加されるくらい、とても充実した内容になっていますが、毎月1回ですので、出来れば月に2回くらいに増やしていただけるといいと思います。

市長

子育てサロンの回数はもっと増やしていきたいと思っています。これも全市的な課題として、回数と開催箇所を増やせるよう、事業の拡充に向けて頑張っていきたいと思っています。

⑥町内会の加入促進について

岡

今年、市では素晴らしい活動をしている町内会を表彰されるということですが、これには神楽本町地区市民委員会の町内会の一つに是非立候補してもらいたいと考えています。町内会加入率が低迷している現在、この町内会の加入率は100%です。その理由を会長に尋ねると、やはりそれなりの努力をしていました。是非それを取り上げて発表していただき、皆さんに知っていただければ、いくらかでも加入率が増えると思います。

⑦医大横の土地に多目的ホールなどの建設について

古池

毎年、高齢者が増えてきている中、敬老会の会場の確保が非常に難しくなっています。今、医大横の土地で宅地造成工事が行われています。この土地の一部を市で買収して、多目的ホールなどを建てていただいて、そこで敬老



会を行うようにしたいと思っています。この協議会でも努力していますので、何とか実現していただくようお願いしたいと思います。

市長

医大横の土地は振興公社から民間事業者に売却され、コンコードパーク緑が丘として、これから宅地造成工事に入っております。私が市長に就任する前から、各地区市民委員会からこの土地に1日も早く新たな緑が丘住民センターを建設してほしいという要望が市に寄せられています。振興公社へは、その分の土地は将来的に市が買うつもりでいるので残しておいてほしいという話をして、今保留させていただいております。現在、全市的に支所の配置、地区センターや住民センターの配置などについて検討している最中であり、緑が丘地域についても検討対象となっています。その全市的なかたちが出来上がった上がった時には、その用地の確保に向けて、これは議会に提案しなければならない事案ですから、議員の皆さんからも何とかご理解いただけるように頑張っていきたいと思っています。まだ確約は出来ませんが、それに向けて全力で頑張っていきたいと思っていますので、また地域からも声をあげていただければと思います。

⑧不要になったテレビの処分について

古池

テレビのアナログ放送が終了しましたが、不要になった古いテレビの処分について苦労している人がいます。家電量販店から「メーカーに相談して下さい」と言われ、引き取ってもらえないそうです。この件についてどうお考えになりますか。

市長

テレビの処分についてですが、テレビは家電リサイクル法の対象となりますね。

市民協働室長

対象になります。

通常、買い換えの場合は、リサイクル料金等の負担をして、購入する販売店で引き取っていただけたらと思います。

市長

家電小売店で引き取っていただけないのであれば、別の方法を考えなければいけないと思いますので、少し調べさせてもらいたいと思います。例えば、リサイクル料金はいただかなければいけないと思いますが、一時的に市で回収、保管して、それから家電メーカーに持っていくなどといった方法など調べてみたいと思います。

⑨災害用備品の保管場所について

平原

神楽宮前地区では各町内会ごとに災害マップを作成し、防災訓練を行っています。

私たちは、洪水時には神楽岡地区センターへ避難するようになっています。しか

し、どのように神楽岡地区センターまで避難するのが問題です。そこで町内で話し合って、リヤカーを購入しました。そのリヤカーに自力で避難出来ない高齢者を乗せ、そういう人たちを1か所に集め、避難所まで連れて行くようにしようということになりました。しかし、そのリヤカーなどの災害時に使用する備品の保管場所がなくて困っています。リヤカー、テントのほかヤカンなどを今は町内会長や役員の家で保管してもらっていますが、それほど広い物置ではありませんし、また高齢ですからいつまで預かっておいてくれるかわかりません。出来れば公園の片隅に保管しておくことが出来る物置を一つ作っていただきたいと思っています。

市長

物置を設置している公園がありますが、公園の清掃などに使うホウキや草刈り機などを入れていたと思います。確かにリヤカーとなると少し大きいですから、それを公園の物置に置くとなるとなかなか難しいかもしれませんので、例えば地区センターや住民センター、町内会館などで災害対策のための大型の備品を保管することについて考えなければいけないと思います。この件については正にまちづくり推進協議会の中で、防災災害対策ということも大きな課題になってくると思いますので、その備品をどうするかということを協議していただいて、その結果をご提言いただければありがたいと思います。それに応じて行政として、場合によっては今の規則の中で、そういう備品については、例えばここで保管するという変更等をしなればいけないと思います。この件については、今日お話を聞いていますので検討させていただきますが、協議会の皆さんの中でもご検討いただけたらありがたいと思います。

⑩孤独死をなくすための取組について

三國

今社会問題となっている孤独死は、旭川市の老人クラブとして非常に深刻な問題だと思っています。老人クラブの会費は納めていますが、その集まりには出てこないという人がいます。その人たちに何とか出てきてもらおうと、「おしゃべり会をしましょう。何か話したいことを話しましょう」と呼びかけて、出てきてくれるようになった人もいます。元気でいつも来てくれる人はいいのですが、来ない人は近所の人に聞いても何をしているのか分かりません。ですから私は皆に、そういう人を見掛けたら、あいさつして今どうしているか聞いてください、と呼びかけています。

他の老人クラブも皆同じ悩みを抱えています。神楽地区の宮前地区老人クラブでは、とにかく来ておしゃべりしようと呼びかけたところ、皆が集まるようになったそうです。私たちもとにかく何かやろうと考え、例えば市議会を見に行こうなど話し合っているところです。私たちの老人クラブの中も一人暮らしの方は多いので、孤独死だけは絶対にならないように取り組んでいきたいと思っていますし、このまちづくり推進協議会の中でもこの件について、委員の皆さんのご意見を伺いながら取り組んでいきたいと思っています。

市長

本当にありがとうございます。これも町内会の加入と同じく非常にたいへんな作業だと思っています。家に居てなかなか出られないお年寄りの方にどのようにして外に

出ていただくかということはたいへん難しいことだと思いますが、よろしく願いしたいと思います。市議会の視察についても是非ツアーを組んでいただいで気軽にお越しただけたらありがたいと思います。

⑪まちづくり推進協議会の役割について

林

まちづくり推進協議会は実行組織というよりも調整役だと思っています。いろいろな立場の方から、いろいろな意見が出てたいへん私も参考になっていますが、それを調整してこういうことをやってみようという時に、この組織で実行出来るかというとなかなか出来ません。協議会から別の組織に働きかけをしたり、いくつかの組織と連携して実行に結びつけるという調整役です。そういう意味ではこの協議会は非常に意味のあるいい事業だなと感じていますので、これを全市的に広めていくことは私も大賛成です。

市長終わりのあいさつ

今日は本当に様々な立場の皆さんからお話を聞かせていただきました。

まず、皆さんがそれぞれたいへん高い志や思いをお持ちになって、当協議会に参加していただいているということに対して、本当に私も勇気付けられましたし、改めて感謝を申し上げたいという気持ちでおります。皆さんからのお話はすべて重要なことでありますし、身近な生活をしていく上での課題として、行政としてしっかりと受け止め、それに対して何らかのかたちでフィードバックしていくべきだという思いで聞かせていただきました。

今日この後も皆さんは1時間ほどご議論いただくということで、たいへんお疲れのところ申し訳ございませんが、どうもありがとうございました。